せいけん詩集

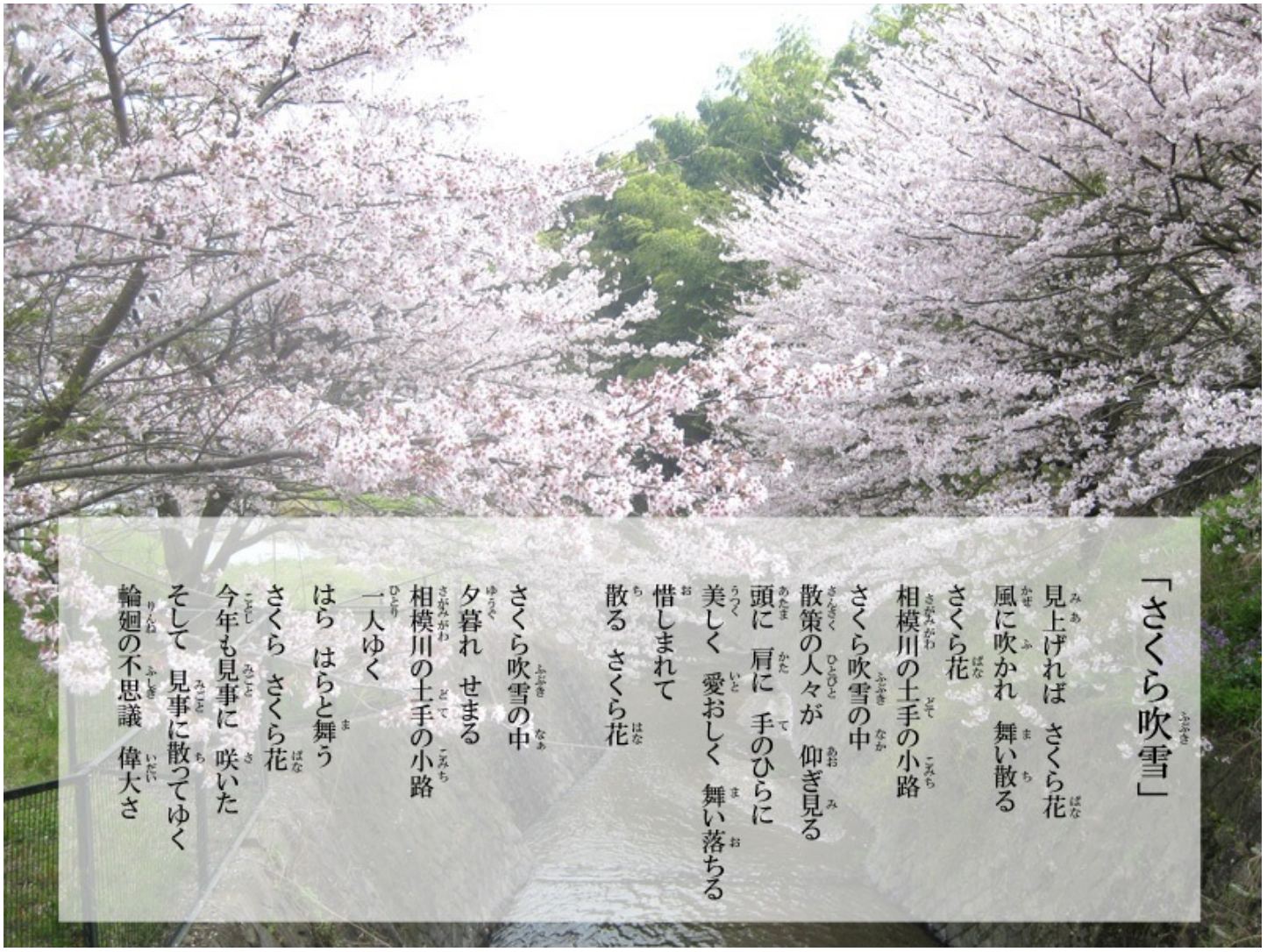
第十五篇

作：近藤せいけん

「さくら さくら」

さくら さくら
さくら花
満開に咲き誇る
艶やかに 悲しげに
美しく
日本の美
さくら花

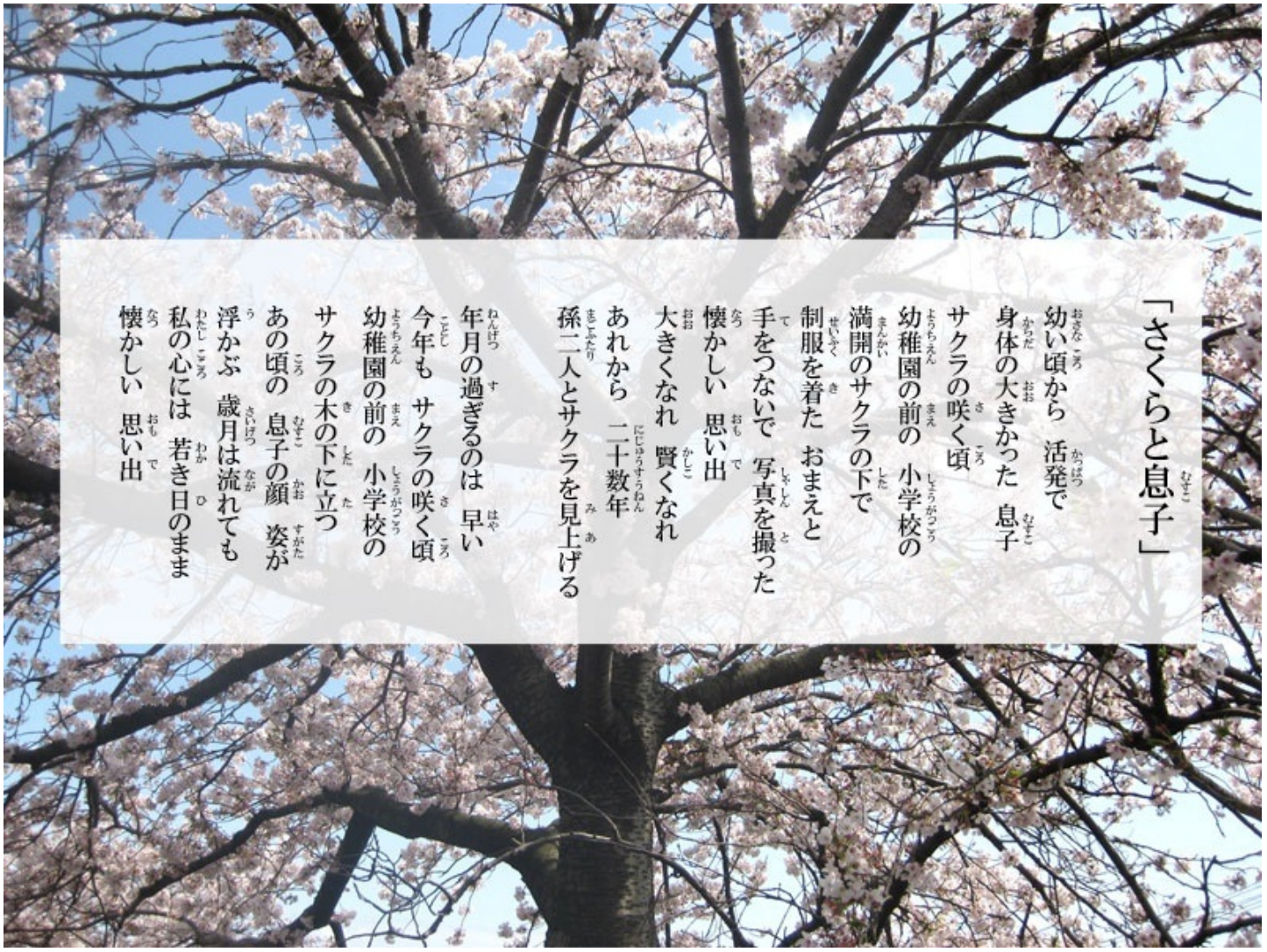
さくら さくら
さくら花
風に吹かれて
散る さくら花
その いさぎよさ
日本の心
さくら花



「さくら吹雪」

見上げれば　さくら花
風に吹かれ　舞い散る
さくら花
相模川の土手の小路
さくら吹雪の中
散策の人々が　仰ぎ見る
頭に　肩に　手のひらに
美しく　愛おしく　舞い落ちる
惜しまれて
散る　さくら花

さくら吹雪の中
夕暮れ　せまる
相模川の土手の小路
一人ゆく
はら　はらと舞う
さくら　さくら花
今年も見事に　咲いた
そして　見事に散ってゆく
輪廻の不思議　偉大さ



「さくらと息子」

幼い頃から　活発で
身体の大きかった　息子
サクラの咲く頃
幼稚園の前の　小学校の
満開のサクラの下で
制服を着た　おまえと
手をつないで　写真を撮った
懐かしい　思い出
大きくなれ　賢くなれ
あれから　二十数年
孫二人とサクラを見上げる

年月の過ぎるのは　早い
今年も　サクラの咲く頃
幼稚園の前の　小学校の
サクラの木の下に立つ
あの頃の　息子の顔　姿が
浮かぶ　歳月は流れても
私の心には　若き日のまま
懐かしい　思い出